



〒104-0044  
 東京都中央区明石町10-1  
 聖路加国際大学礼拝堂  
 TEL 5550-2416 (日曜)  
 TEL 5550-7043 (平日)  
 FAX 5550-7070  
 E-mail: chapel@luke.ac.jp  
 URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



臨時チャペルのサンクチュアリランプ

聖書に学ぶ会

- 第1日曜日 午後 聖書を読む会
  - 第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書
  - 第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書
- 場所…旧館2階 プライベートルーム  
 日程・場所変更の場合があるため事前にご確認ください。

巻頭メッセージ

「目標を目指してひたすら  
走ることです。」(フィリピ3:14)

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■ 午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■ 午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜、第3火曜、第3水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

■ 午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■ 午前10時 日曜学校礼拝 臨時チャペル

■ 午前10時30分 聖餐式・説教 臨時チャペル

■ 午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

チャペレンメッセージ

# 「目標を目指してひたすら走ることです。」(フィリピ三：二四)

司祭 バルナバ 関 正勝

チャペルの改修工事が始められるのにもなつてチャペルの左右それぞれの部屋にあったキリスト教センター事務室とチャペレン室がトイスラー記念館の二階に仮住まいをすることになつて数カ月が過ぎました。わたしは上田司祭の部屋に週一日だけ居候させて頂いております。トイスラー記念館全体が歴史的建造物に相応しく、すばらしいまさに館です。この部屋の壁に日野原重明先生の揮毫(きごう)が掛けられています。そこには堂々とした書体で次のように書かれています。「人はいくつになつても、生きかたを変えることができます」と。この揮毫は先生がおいくつの時に書かれた書なのだろうか?と想像したりして部屋に入るたびに先生の御生涯を振り返りながら考えさせられています。先生の医師として聖路加国際病院を拠点として医療の世界(勿論、医療に限定されなくて広く世界の平和と人権にかかわる領域)に挑戦され続けた情熱が、この言葉のうちに秘められているようにわたしは実感させられています。

と同時に迫害と困難のなかを走り続けた宣教者聖パウロのフィリピ

の人々に向けて語った言葉とその生き方が迫つてまいります。彼は語ります。フィリピ三：一二以下です。「わたしは、……既に完全な者となつてはいるわけではありませぬ。なんとかして捕らえようとして努めているのです。」また「後ろのもの(過去の経験や実績)を忘れ、前のものに全身を向けつつ」走ると。この信仰に対する姿勢は、人生に対するそれと同じでしょう。「走り続ける」ことと「変わり続けること」とは同じではないでしょうか。「変わり続ける」とは、自己完結や自己満足的生き方ではなく、「未完の自己」に挑戦し続ける情熱的な生き方にほかならないでしょう。「未(無)知」な自己と課題に直面させられながら、その解に向かって「ひたすら走る」と、変わらぬ自分ではおられない自分を自覚させられることが、わたしたちの日常なのではないでしょうか?

「わたしはわたしであつてわたしでないことはない」といった、ナルシシスト的な完結した自己を生きるのではなく、「わたしはあなた(事柄・現実)との関係によつてわたしではなくなる(新しい自分になる)」「走り(自己変革)を生きたいものです。」